

今回のテーマ:第4回 校内授業研究会の振り返り

11月20日(木)に第4回目、なかよし学級の授業研が終了しました。先生方、お忙しい中ありがとうございました。協議会で出た意見や北山先生からご指導いただいたことを共有したいと思います。今回の授業研について、振り返っていきます。目を通していただけたら、嬉しいです。

<なかよし2組 佐藤学級>

『漢字柱になろう～3校合同お楽しみ会の準備をしよう～』

本時は、児童が自分に合った漢字の学習方法を選択し、校長先生へ渡す招待状(ひらがな)を漢字に直す活動でした。

協議会での意見まとめ

- 「漢字パズル」などの教材やワークシートが子どものやる気を引き出していた!
- ゴールが明確(手紙を完成させて渡す)で、達成感が得られる構成だった。
- 間違いに気づいたとき、友達への声かけが思いやりのあるものだった。
- 子どもたちが自分の特性に合った方法を選べていた。
- 教材の作成の負担。持続可能な方法を考える必要がある。
- 形(視覚)だけでなく、音(聴覚・言葉)で覚える方法も取り入れられる。



北山先生からのご指導

- ①「主体的な学習」を引き出す要素を。
 - ・自分事にする。(校長先生への手紙が読みづらいから助けよう!など、ゲストティーチャーの活用◎)
 - ・選択に機会を与える。(「自分で学び方を選ぶ」ことは、将来の自立・自己決定につながる。)
 - ・活動を完結させる。(最後に見直しを行い、「できた!」という達成感で終わらせることで自己肯定感を高める。)

②漢字が苦手な背景と支援

- ① ワーキングメモリの弱さ…一度に覚える量を減らす、手元に見本を置く、ICTで手元に表示する。
- ② 視覚認知の弱さ(文字が歪んで見える、線が抜けて見える場合がある。)…UDフォント、太いペンの活用、マス目の調整。
- ③ 不器用、運動面の課題…三角鉛筆、滑りにくい下敷き、筆順アプリの活用。
- ④ 見通しがもてない…パターン化して掲示する。

③各学級で活かせる視点

- ・ICTの活用(筆順辞典アプリ、PowerPoint教材などは個別の支援に有効)
- ・ポジティブな評価(「できたこと」に注目し、自己肯定感を下げないことが最優先!!)
- ・協働的な学び(「教えて」と言えることや友達の間違いを優しく指摘できるスキルも「自立活動」の一環として捉える)

④教材の持続可能性

→個別教材の準備は負担が大きいため、ICTの活用や汎用的な工夫を取り入れる必要がある。

⑤支援のゴール

→最終的には、支援を外して自分で学習手段を選べるよう「自立」を目指していく。

各学級に漢字に苦手意識をもつ児童はいるのではないのでしょうか。ただ、「苦手」で終わらせるのではなく、どんな背景があるのかを見極め、その子に合った学習の仕方を提案してくれた授業だったと思います。

また、「早く漢字に直そう!」という「**主体的な姿**」、一緒に招待状を完成させようという「**協働的な姿**」がみられました。

2学期も残りわずかですが、湖北小の児童が主体的かつ協働的に学びに向かっているよう、これまでの授業研を生かしていきましょう!!!

佐藤先生・赤坂先生・日景先生・青柳先生・猪越先生
おつかれ様でした!!!

今回で、今年度の授業研すべてが終了しました。研究テーマが変わり1年目でしたが、実りの多い研修になったのではないかと思います。ありがとうございました!!! 今後は、成果と課題についてまとめていきます。よろしくお願いします。